

# H 国 語 問 題

## 注 意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。  
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は16ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は1〜3となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

### マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しすぎはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
0 1 2 3 4 5
0 0 ● 0 0 0

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

(注1)  
A・R・ホックシールドによれば、社会にはどの感情がその場に適切なのかを決める「感情規則」が存在している。感情規則は、感じるべき感情の種類、その感情を感じるべき場所、感情をどのくらいの強さや期間にわたって感じるべきかということを示すルールである。たとえば、お葬式では悲しみを表現せねばならない。笑ったり楽しそうにしたりしては不謹慎と見なされる。また、身内の死に直面しても冷静である場合、悲しみ方が足りないとか「冷酷な人物」であると見なされる。

このように、私たちは感情規則にもとづいて、周囲の人からの期待にそうかたちで感情を経験し、表出するよう求められている。

(注2)  
ホックシールドによれば、感情マネジメントが日常的に行われるのは、適切な感情の表出が他者へ敬意を表明していることの証と見なされているからである。

(注3)  
ホックシールドの感情マネジメント論は、E・ゴフマンの儀礼的相互行為論に影響を受けている。ゴフマンによれば、私たちはお互いに「司祭」<sup>(注4)</sup>として儀礼的行為を遂行することとおして、お互いの「神聖な自己」のイメージをツムギ出しているという。

たとえば、私たちの社会ではプライバシーを詮索することや他者を凝視することは a 違反だとされているが、それはなぜだろうか。さほど親しくない問柄においては、まずは互いに慎み深さと平静を装い、立ち入った話題を避け、<sup>(a)</sup>不躓な視線を送ることを控えあう。また、電車やバス、レストランやエレベーターなどで見知らぬ者同士が乗り合わせた場合、ちらりと視線を送ったあとは互いに何気ない風を装う。こうした人々が何気なさ<sup>(a)</sup>を装う様子をゴフマンは「儀礼的無関心」という表現ですくいあげている。私たちは日常生活のなかでさまざまな「儀礼的無関心」を装っているが、こうした演技は他者との適切な距離を保つための「回避儀礼」の一例である。「回避儀礼」とは、相手の領域を侵犯しないようにする儀礼的行為である。

また、皆さんは普段、誰かと目が合うと短い微笑を交わしたり、すれ違うときに会釈をしたり、仕事の手をとめて挨拶をしたりすることはないだろうか。これらの行為は、ゴフマンによれば「呈示儀礼」の例である。私たちは挨拶やちよつとした気配りなどをおして、相手に対する敬意や行為を互いに呈示しあっている。敬意という贈り物を贈られた者は、自分が孤立した存在ではないこと、他者が自分を [b] 扱うつもりがなく、何らかの親しみや関心を抱いてくれていることを知ることができる。そして、それをおして、お互いの自己が尊重されるべき価値をもった神聖な存在であることを絶えず確認しあっているのである。

さらに、身だしなみを整えたり、品よくふるまったりするのはなぜだろうか。私たちは、服装、髪型、化粧、装飾品、しぐさ、態度といった「c」を整えることによって、他者に映るよき自己のイメージをつくることができる。つまり、品行方正であることによって、相手に対する敬意やその場を尊重する気持ちを表すと同時に、自分も儀礼的行為の規則を遵守して適切にふるまうことのできる望ましき存在であると伝えているのである。「回避儀礼」や「呈示儀礼」によってお互いに敬意を贈りあうこと、また「品行」によって自分も他者からの敬意を受け取るにふさわしい存在であるとアピールすること、それらの相乗効果によって、おのおの「神聖な自己」が浮かび上がる。もしも儀礼的行為の作法を守らず、配慮に欠ける者によって領域侵犯が生じると、自己の神聖性はたちどころに傷つき、脅かされ、その輝きを失う危機に瀕する。言いかえれば、自己の神聖性は、お互いの儀礼的配慮の連鎖によってツムぎだされる繊細なものである。それゆえ、人々は儀礼的行為を遂行しない人を「厄介者」として排除することによって、自己の神聖性と社会的場面の秩序を確保しようと努力することになる。

もしも違反者による領域侵犯が生じた場合、人々は不快感や不安や恐怖を覚える。見ず知らずの人からじつと凝視されたり、通りすがりの人にすごいケンマクで話しかけられたり、初対面の人から私的なことを根掘り葉掘りたずねられたりする場面を想定してみよう。そのような場合、多くの人はその場から身を引き、相手とかかわることを拒否したり、無表情を装ってまるで何事もなかったかのようにふるまったりする。あるいは、侵犯者を

見下すか人間扱いしないことによつて領域侵犯が起こつたということ自体を否認する。そして、これらによつて補償されえないほどの侵犯者は、異常者というレッテルを貼られて隔離されてしまうことになる。彼らは自分<sup>(1)</sup>や他者の「面子<sup>めんし</sup>」をたてる努力をしない・できない人だと見なされてしまふがゆえに、他の人々も彼らの「面子」をたてる努力を放棄するというわけである。

この排除の構図からわかることは、「状況適合性の規則」には道徳的性質が含まれているということである。状況に見合ったふるまいを遂行するか否かは、私たちが当該の社会的集まりに帰属できるか否か、その集まりから離反するか否かを決定する際の判断材料となる。そして、状況に合致するふるまいを遂行しようとする意志と能力は、その人物の人間性を判断する際の一つの指標とさえなる。

このように考えるならば、世俗的であるとされている近代社会は、実はさほど非宗教的なものではない。<sup>(注5)</sup> 大村英昭が指摘するように、一般的には世俗化によつて宗教が私秘化・「私」化したと考えられているが、それはむしろ「私」が宗教化されたと考える方が適切である。私たちは、「状況適合性の規則」を遵守し、おのおのが「司祭」<sup>(2)</sup>として儀礼を執り行い、相手に対して「宗教的配慮」をもつて接しあうことによつて、互いの「神聖な自己」を祀り<sup>(b)</sup>あつているのである。

(山田陽子「心理ブーム——人はなぜ、感情をコントロールするのか」による)

(注) 1 A・R・ホックシールド——アメリカの社会学者(一九四〇)。

2 感情マネジメント——社会的な場面で、自分の感情や思いをうまく処理していくこと。

3 E・ゴフマン——アメリカの社会学者(一九二二—一九八二)。

4 司祭——キリスト教のカトリック教会の聖職者のこと。

5 大村英昭——日本の社会学者(一九四二—)。

問

(A) 線部(イ・ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書で記すこと)

(B) 線部(a・b)の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。

(C) 空欄 a } c には、それぞれどのような言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なものを一つずつ選び、番号で答えよ。

a	1 常識	2 ルール	3 道徳	4 エチケット	5 所作
b	1 颯爽と	2 慇懃に	3 粗暴に	4 丁重に	5 邪険に
c	1 自己の表看板	2 自己の意匠	3 自己の幻想		
	4 自己のルックス	5 自己の神聖性			

(D) 左記各項のうち、ここで言う「回避儀礼」に該当するものを1、「呈示儀礼」に該当するものを2、いずれにも該当しないものを3として、それぞれ番号で答えよ。

イ 必ずしも仲の良い職場の同僚に、今日の調子をたずねる。

ロ パーティーでは相手の年収についての話題はあえて出さないようにする。

ハ スピーチで聴衆のことを具体例を挙げてほめたたえる。

ニ 大学生が就職活動において自分をアピールするような服装をする。

ホ 一日の仕事が終わったとき「お疲れさまでした」と言い合う。

(E) 線部(1)について。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 自己の神聖性と社会的場面の秩序を確保しようとする事。

2 正装をして社会の中で品よくふるまうこと。

3 儀礼的相互作用によって「神聖な自己」が浮かび上がる事。

4 指導者の神聖性を畏怖するあまり、集団から離反すること。

5 相手の社会的威信を確保しながら、集団の士気を高めること。

(F) 線部(2)について。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 宗教的組織の中で信者の「自己の神聖性」が守られるようになったということ。

2 信念をもった個人が司祭としての職能を果たすようになったということ。

3 状況に合致するふるまいが人間性を判断する際の基準となったということ。

4 領域侵犯をタブーとして禁じ精神の崇高さを賞賛するようになったということ。

5 互いの人格を神聖なものとして尊重するようになったということ。

(G) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 悲しむべき場面で冷酷な人間と見られないためには、感情を誇張することも必要となる時がある。

ロ 品行方正であることは、他者に対するメッセージではなく自己を満足させるためのものである。

ハ 「感情の規則」は「状況適合性の規則」よりも優先されるものである。

ニ 通行人に突然怒った口調で話しかけても、相手の神聖性を脅かすことにはならない。

ホ 現代社会には表現の自由があるため、何を言われても我慢したふりをするのが「儀礼的無関心」である。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

新発見は無から生まれるのではない。コロンブスの卵がよい例だが、解決がわかってしまった後では、「なあんだ、そんな簡単なことか」という反応が返ってくるように、実は答えがすでに目の前にあるのに、常識が邪魔してそれが見えてない場合が多い。常識が何らかのきっかけで取り除かれ、それまで隠されていたものが見えるようになる。これが発見だ。古い認識枠にとってはノイズでしかなかったためにまったく無視されていた要素が、新しい認識枠におかれることで急に重要性を帯びる。したがって創造的発想をするためには、常識から距離を取る必要がある。

次のような愚か者の物語がある。ある夜、一人の男が道ばたで何かを探している。どうしたのかと尋ねると、鍵を落としてしまったので家に入れなと言う。この近くで落としたのは確かなのかと確認すると、いや、落としたのは他のところだけど、暗くて見えない。だから街灯近くの明るいところを探していると答えたという落ちだ。本当に問題になっているところを探さないと、自分に慣れた思考枠内で解決を探すのは、街灯近くの方が明るいという理由から、そのそばでいつまでも血眼になって探しものをする愚か者と変わりない。(1)

高学年の学生に比べ、どうも新入生の方が教えにくい。一年生は何も知らないから理解が遅いのだと初めの頃は考えていたが、その解釈は誤っていた。彼らの飲み込みが悪い原因は知識不足ではない。実はその反対に、常識と呼ばれる知識すなわち偏見に彼らはシバ<sup>(4)</sup>られていて、既存の常識に反する講義内容が浸透しにくいからだ。

自然科学と違って、人文・社会科学ではテーマが日常生活と密接に連なっている。そのために、研究の訓練を受けていない人でも多くの知識を持っている。物理学や化学では自分の無知を学生が素直に認めるから、授業内容に対する抵抗はあまり起らない。ところが恋愛とか責任などというテーマになると、常識が邪魔して論理的な思考展開がかえって難しい。もちろん物理学でも、時間・空間・物質などといった当然わかっているつもりの内容を吟味するのは容易でない。しかし人文・社会科学の場合は、考察対象と常識との距離がより近いので、常

識という名の偏見がよけいに邪魔になり易い。

□、高学年になり専門の知識が増えるとともに、その分野に特殊な考え方に洗脳されてゆく。そのため、素人なら簡単に気づくことでも、専門家には見えないという逆の弊害が現れる。だから他の分野の本を読んだり、外国に暮らしたりして違った見方に触れることが重要になる。

こんなジョークがある。<sup>(a)</sup>カキネに小さな穴が空いていて、そこから牛が尻尾を出して振っている。それを見た物理学の教授は、「どうやって牛は、あの小さな穴を通り抜けてカキネの向こうに行ったのだろう」と真剣に悩み出したという。普通に考えれば何でもないのに専門家はかえって知識が邪魔してものが見えなくなる事態をこの話は面白おかしく表現している。

我々は誰でもいわば色つきメガネをかけているようなもので、レンズが起こす変色や歪みを通してしか人間は外界を把握できない。ある対象を前にするや否や、私たちは自らの持つ世界観にしたがってすぐさま対象を解釈する。知識を習得し、思考訓練を積み、あるいは喜怒哀楽を生きることをとおして、我々の眼を覆うレンズの色はどんどん変化する。かといってレンズの色が淡くなったり、無色透明になったりすることはありえない。哲学者であろうとも科学者であろうとも、世界観という色メガネを必ずかけて生きている。メガネをはずして外界を直接把握することなど人間には絶対にはできない。

<sup>(3)</sup>新しい知識の獲得とは、空の箱に何か新しいものを投入するようなことではない。記憶と呼ばれるこの箱にはすでに様々な要素がいっぱい詰まっている。何らかの論理にしたがって整理されたそれらの要素群の中に、さらに新しいものを追加するような状況を想像しよう。そのままでは余分の空間がないから、既存の要素を並べ替えたり、場合によっては一部の知識を放棄しなければ、新しい要素は箱に詰め込めない。

子供の頃から我々は夥しい量の情報を摂取・受容してきた。ところで赤ん坊は無知な状態でこの世に生まれてくる。しかし無知のために外部情報の受容が妨げられるわけではない。それどころか反対に、彼らは驚くべき速度で新しい情報を咀嚼・消化してゆく。それは、年を取るにしたがって構造化される記憶がまだ嬰兒に備わって



いないからだ。外国語は幼少のうちに学ばなければ、後にどんなに努力しても発音や文法の誤りを矯正できないが、それは、母語を習得するにつれ、固有の言語構造ができ上がり、他の言語の世界を受けつけなくなるからである。

知識の欠如が問題なのではなくて、その反対に知識の過剰<sup>(4)</sup>が創造活動の邪魔をしている。有益だからといって新しい情報が常にすんなりと受け入れられるわけではない。したがって創造的思考のためには、常識の見方とは違った角度から材料を見直す必要がある。

(小坂井敏晶『異邦人のまなざし——在パリ社会心理学者の遊学記』による)

## 問

(A) 線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書<sup>かいしよ</sup>で記すこと)

(B) 空欄  にはどのような言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 ところで      2 たしかに      3 たとえば      4 とはいえ      5 したがって

(C) 線部(1)について。その意味内容として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 正解は往々にして身近なところにある。
- 2 瑣末な問題を解決する方が容易である。
- 3 手がかりのあるところに解決策もある。
- 4 解答を探す手間が少なくて済む。
- 5 既存の認識枠組みによってとらえやすい。

(D) 線部(2)について。これはどのようなことをたとえているのか。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 解釈を通してはじめて認識対象たる世界が意味をもつ。
- 2 対象を把握する際に各自の世界観が枠づけとなる。
- 3 われわれの世界観は常に他者によって歪められている。
- 4 新たな知識の獲得に応じて世界観を修正しうる。
- 5 解釈対象の変化に応じてわれわれの常識も変化する。

(E) 線部(3)について。その理由として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 既存の知識の体系を修正してはじめて新しい知識がそれと整合しうるから。
- 2 人間の記憶力に照らして、同時に保有しうる知識の量には限りがあるから。
- 3 すでに一定の知識を有していなければ、未知の情報を解釈できないから。
- 4 人は成長過程で情報を受容するに従って、その受容速度が遅くなるから。
- 5 古い知識がすでに固定化されており、その誤りを認めることが困難だから。

(F) 線部(4)について。その具体的な説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 知識が記憶の箱からあふれ出すほど多くなると、新たな情報を吸収できなくなってしまう。
- 2 思考方法を規定する言語の習得は、新たな知識の獲得とともに困難になってゆくものである。
- 3 既存の解釈枠組みが強固になりすぎると、新たな発想を受け容れられなくなってしまう。
- 4 常識は世の中の人々の多数派が受け容れている知識であり、それは往々にして凡庸である。
- 5 新たな発想を生み出すには、むしろ、知識の少ない新入生や赤ん坊の方が適している。

- (G) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
- イ 「コロンブスの卵」は、常識から距離を取ることに成功した例である。
  - ロ 人文・社会科学の学生は、高学年になっても既存の知識にとらわれることはない。
  - ハ 「色つきメガネ」のレンズの色は、専門家のものの方が濃い。
  - ニ 無知であればあるほど、蓄えられる知識の量は多い。
  - ホ 子どもも言語を習得するに従って、外界を認識する力は失われてゆく。

三 左の文章は主人公の右近少将が恋人を尋ねて九州で再会し、都に連れ戻そうとする場面である。これを読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

その後は少将、すべて世にあるべくもさらにおぼえざりければ、後には病になりて年月を経るに、なほわびてたへがたく死ぬべきにておぼえければ、「さは今一度相見ではいかでかあらむ」と思ひて、公に暇を申し、父の大納言と言ひける人にも、「あからさまに物に詣でむ」と言ひ、忍びてひそかに出で立ちて、鎮西へ下りけるに、隨身一人、小舎人童一人、馬の舎人ばかりにて、ただ行き着く所を泊りにて、この者どもに養はれて行きけるほどに、日ごろを経てすでに大宰府に下り着きて、尋ねべき方なかりければ、かまへて京にて前に居たりし童を尋ねて呼び出だしたりければ、童、「あないみじや。こはいかにしておはしつるぞ」と言ひて、主の女に告げたりければ、主会ひて、あはれと思ひたる気色なり。少将、「なほ世の中にもありがたくおぼえて、死ぬべくなりにたれば、今一度対面せむとてなむ」と言ひければ、女、「あはれに、かくまで思ひたまひけること」と言ひて会ひたりければ、少将やがてともかくも言はで、暁に馬にうち乗せて京へ帰り上らむとしければ、女、「いかにしてか行くべき」と言ひけれども、<sup>(8)</sup>のがるべくもなかりければ、「いかにかはせむ」と思ひて行きけるに、十二月ばかりのほどなりければ、雪いみじく降りて、風の気色たへがたかりけれども、「ただとく行き着きなむ」と思ひて、急ぎて行きけるに、日の暮るるままに、雪の降り積れるも知らず行き行きて、暗くなりければ、行き宿る所もなくて、ただはかなく木の本に下り居て、「こはいづくとか言ふ」と問ひければ、人ありて、「ここをば山の井となむ申す」と言ひければ、流れ流れ行く水をむすびあげて、食物<sup>(10)</sup>などかまへて、女にも食はせ、我等<sup>(注2)</sup>なども食ひてけり。かやうに道の過ぎけるも、この供なる者どものはかなき軽物<sup>(注1)</sup>などを持ちたりければ、とかくして養ひけるに、ここはむげに<sup>(11)</sup>人氣も遠くて、故なく心細く思ひ続けられて、<sup>(9)</sup>はるばると見え渡りけるに、過ぎ来し方、行く末などのあはれなることどもをたがひに語りつつ泣きけり。

〔今昔物語集〕による

(注) 1 鎮西——九州の総称。

2 軽物——軽い物のことで、絹布類を指す。

## 問

(A) ——線部の読みを平仮名・現代仮名遣いで記せ。

(B) ——線部(1)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 世間から嫌われてしまったと思わざるをえなくなったので。

2 立身出世の見込みがほとんどなくなってしまったので。

3 世の中の出来事に全然興味や関心が持てなくなってしまったので。

4 この世で生きていこうとはまったく思われなくなったので。

5 この世からすべてのことを消し去りたいと思うようになったので。

(C) ——線部(2)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 もう一度会わないでどうしていられようか。

2 会うのはもう一度だけにしたいものだ。

3 もう二度と会うことはできないだろう。

4 一度会っただけでは気がすまないだろう。

5 もう一度会ってみてもどうにもならない。

(D) ——線部(3)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 露骨に                    2 ほんの少し                    3 大きさに                    4 やむなく                    5 ぜがひでも

(E) ——線部(4)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 余裕                    2 方位                    3 方法                    4 時間                    5 理由

(F) 線部(5)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 準備して                      2 途方にくれて                      3 連絡を取り合つて

4 覚悟を決めて                      5 手を尽くして

(G) 線部(6)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 みつともないことです                      2 大変なことです                      3 ひどいことです

4 不吉なことです                      5 不思議なことです

(H) 線部(7)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 そのまま                      2 しばらくして                      3 すぐに                      4 もはや                      5 事前に

(I) 線部(8)について。どうして「のがるべくもなか」ったのか。その理由として最も適当なもの一つを、

左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 有無を言わずに連れて行かれるから。                      2 少将をずっと待っていたから。

3 冬の寒さに耐えられなかったから。                      4 病気で死期が近づいていたから。

5 一人で暮らすのは無理だと思ったから。

(J) 線部(9)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 何となく                      2 疲れきつて                      3 頼りなく

4 悲しみのあまり                      5 逃げられずに

(K) 線部(10)の意味を六字以内で記せ。

(L) 線部(11)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 むやみに                      2 むなしく                      3 ちよつと                      4 思いがけなく                      5 まさしく

(M) 〓 線部(i)・(ロ)の文法上の意味は何か。左記各項の中から最も適当なものを一つずつ選び、番号で答えよ。  
ただし、同じ番号を二度用いてもよい。

- 1 受身
- 2 可能
- 3 完了
- 4 尊敬
- 5 自発

【以下余白】